

HELES, JCA Hokkaido, JACET Hokkaido – Joint Meeting 2022

HELES, JCA 北海道支部, JACET 北海道支部
2022年度 合同研究会



Date 日付： 2023年3月4日（土）

Registration 受付： 12：30～

Study Meeting 研究会： 13：00 – 15：50

Venue 会場： オンライン開催（Zoom を利用）

Registration Fee 参加費： 無料

Registration 参加申し込み： 下記のサイトからお申込みください

<https://forms.gle/tRKpd8qvyxmtjTzt5>（3/1（水）締切）



※合同研究会の参加に必要な Zoom の情報は、前日の3月3日（金）にEメールを通じて配信いたします

PROGRAM

12:30 – 13:00 受付

13:00 – 13:05 開会式

13:05 – 13:30 研究発表①

「英語の多義語指導のあり方－多義語の定義から見る指導の考察－」

飯島 尚憲（慶應義塾大学大学院）

13:35 – 14:00 研究発表②

“An Inquiry into Willingness to Communicate and English Learning Goals
among Japanese EFL Learners”

Satomi Fujii（Hokkaido University）

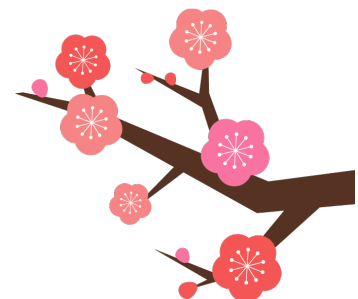
14:00 – 14:10 Coffee/Tea Break 休憩

14:10 – 15:40 講演

「日本の EFL 環境での効果的英語授業の設計：理解・練習・繰り返しを重視して」

佐藤 臨太郎（奈良教育大学）

15:40 – 15:50 閉会式



ABSTRACTS

研究発表①

「英語の多義語指導のあり方－多義語の定義から見る指導の考察－」

飯島 尚憲（慶應義塾大学大学院）

本研究では、英語の語彙学習における多義語の教え方を、認知言語学における多義語の定義から考察をする。従来、認知言語学における多義語の定義は「1つの言語形式に複数の関連した意味のある言葉」(Goddard, 1991, 他多数)と考えられており、それが前提のように一人歩きしている様子がある。しかし、この中の「関連した」というのは、どのように学習者の間で関連づけが行われているのか非常に曖昧なものになっている。そこで、本研究では、英語学習の状況を質問紙調査をしたのち、複数の英語の語義を学習者に提示して、統計的手法により語の意味同士と学習者の関連づけ度合いを調査した。結果として、多義語かそうではないかの決定は学習者の語の関連付けによるところが多いことが示された。具体的に、どのような言葉がどのように関連づけられているかという「認知的な側面」を紹介する。また、そこから多義語の指導法を示唆する。

研究発表②

“An Inquiry into Willingness to Communicate and English Learning Goals among Japanese EFL Learners”

Satomi Fujii (Hokkaido University)

Previous research has demonstrated that having specific learning goals improves task performance and academic achievement (e.g., Locke, 1996; Schnell et al., 2015). Furthermore, learners who make daily efforts to achieve their goals have the potential to communicate successfully in the target language (Gregersen & MacIntyre, 2014). However, research to date has not yet determined the interactions between English learning goals and willingness to communicate (WTC). This study examined the differences in English learning goals and specific actions for goal achievement according to WTC levels among Japanese EFL learners through qualitative analysis. As a result, high-WTC learners tended to have high-level goals, and low-WTC learners tended to have the lowest possible goals. Moreover, high-WTC learners tended to take a variety of specific actions for goal achievement, whereas low-WTC learners took rather general and common actions. Data showed clear differences between these two groups of learners.

ABSTRACTS

講演

「日本の EFL 環境での効果的英語授業の設計：理解・練習・繰り返しを重視して」

佐藤 臨太郎（奈良教育大学）

近年、教師からの知識の伝達や練習を最小限に抑えた、生徒主体の活動を重視した、いわゆる student-centered の授業を構築すべきという流れがある。母語習得過程や第 2 言語習得理論とも整合性がありそうで、発表者もその理念は否定しないし、むしろ選択的有効活用を支持する。しかしながら、日本の EFL（English as a Foreign Language:）学習環境において、特に中高（小？）での公教育において、この理念をメインに据えることが、本当に効果的・効率的、かつ公平・公正であるかは疑問である。本発表では、理解・練習・繰り返しを重視した、発表者が日本の EFL 環境において効果的だと考える英語指導について提案する。（参加の皆様との活発な意見交換を期待します。なお使用言語は日英両言語で柔軟にと考えています。）

ZOOMに関するお願い

- ① Zoomで参加する際、表示されるお名前を参加申込の際に登録したお名前でご参加ください。名前の変更方法は以下のリンク先をご覧ください。
<https://symphonict.nesic.co.jp/workingstyle/zoom/change-name/>
- ② 発表者を除き、マイクは原則「ミュート」にしてください。ビデオは任意とします。（Q&Aタイム等については、司会者の指示に従ってください。）
- ③ Zoom画面の録画、撮影は禁止させていただきます。
- ④ ご質問やご意見は、Zoom画面の下のチャットに随時書き込んでください。（全てのご質問にお答えできない場合がございますのでご了承ください。）
- ⑥ 機器や回線の不具合等によりご視聴いただけない場合や途中で終了する場合がございます。その際にご容赦願います。

《お問い合わせ先》

- ◆ HELES 事務局 三ツ木 真実（小樽商科大学）
mitsugi [@を入れる] res.otaru-uc.ac.jp
- ◆ JACET 北海道支部事務局 目時 光紀（天使 大学）
metoki0702 [@を入れる] gmail.com
- ◆ JCA 北海道支部事務局 長谷川 聡 社会福祉法人アンピュラス
hasepy55 [@を入れる] gmail.com